



神金公民館だより

第173号

2024年
8月1日

猛暑の



梅雨明けとともに、猛暑の夏がやってきました。

この時期、果樹農家の方々はモモやスモモの出荷期となり、忙しい毎日だと思えますが、熱中症の危険性が極めて高くなると予測される熱中症警戒アラートが発信されたら、十分に気をつけて作業を進めていただければと思います。



救急安心 センター やまなし #7119

高齢者虐待防止地域見守りネットワーク運営委員会において、急な病気やけがで救急車を呼ぶべきか、様子を見るべきかなど判断に迷った時に相談に応じる救急電話相談窓口として「救急安心センターやまなし」を利用していたきたいと紹介がありました。

熱中症の症状が疑われる時などに活用してみてください。



急な病気やけがで迷った時は、ココに相談！

救急電話相談窓口

#7119

救急安心センターやまなし
24時間
365日

IP電話・ダイヤル回線の場合は **055-223-1418**



休日や夜間に診療できる医療機関をお探しの場合は、以下にご相談ください

① 山梨県救急医療情報センター ・対象地域：県内全域 ・案内時間：毎日24時間（甲府市の方は2の時間帯を除く。）	055-224-4199	⑤ 富士五湖消防本部	0555-23-4444
② 甲府市医師会救急医療センター ・対象地域：甲府市 ・案内時間：毎日23:00～翌8:30及び休日8:30～18:00	055-226-3399	⑥ 峡北消防本部	0551-22-8181
③ 初期救急医療センター（山梨大学医学部附属病院内） ・比較的軽症で受診を希望する方 ・受付時間は毎日18:00～23:00（診察受付22:30まで） ・受診の際は緊急連絡が必要となります。	055-273-1122	⑦ 笛吹市消防本部	055-261-0110
④ 山梨県東部消防指令センター （都留市消防本部・大月市消防本部・上野原市消防本部）	0554-45-0119	⑧ 峡南消防本部	055-272-1919
		⑨ 東山梨消防本部	0555-32-0119
		⑩ 南アルプス市消防本部	055-283-1999

お問い合わせ先 山梨県防災局 消防保安課 055-223-1430

神金トピックス&ニュース

公民館サークル シスターズ

毎月第1・3土曜日（第5土曜日も）に活動しているエアロビクスとヨガのサークルです。

エアロビクスは、ダンスをしながらエクササイズを行う有酸素運動なので、心肺機能の向上・全身持久力の向上も期待できます。

参加者を募集中です！



上条集落見学会&じゃがいも収穫体験会

7月6日に「上条を活性化する会」主催のジャガイモ収穫体験会が開催され、ジャガイモの収穫体験や野菜・果物の販売、上条集落見学会も行われました。

収穫体験された参加者には、収穫したジャガイモをお土産として持ち帰ってもらいました。



神金の歴史

地元の歴史研究家でもある故飯島卓郎氏が、神金小学校PTA会報「ふもと」に執筆し寄稿した「神金の歴史」をシリーズで紹介します。

新青梅街道 七

ところで、安田義定は以仁王の命令を受けて各地に潜んでいた甲斐源氏と力を合わせ富士川の合戦・木曾義仲の討伐、義経の副将軍となり一の谷・屋島・壇ノ浦の合戦に功績を挙げ遠江の国主となった。長子義資は越後の国主となり共に出世をしたのである。

浜松神明社を起点とした高橋に通ずる高芝口は、番屋地区に萩原口留番所が設けられて以来通行差し止めになったが、それまでは主要の道路であった。天狗沢のバス停から約四百米東上すると小松尾のバス停がある。この近くに木戸口という処があるが、昔、ここは通行手形のないもの・世を憚るもの等に高芝口を利用させないため夜間木戸を立てて道を塞いだものと伝えられている。

青梅街道を柳沢峠越えか葡萄沢・黒川谷経由かの選択で苦慮に立った矢崎治兵衛は、窮余の一策として高芝口を第三案として出したが、これは時を稼ぐためのもので柳沢峠越えは一貫した執念であった。彼は一之瀬高橋の住民に呼びかけ、黒川谷の道が開通すればここは陸の孤島化して寂れてしまう、それを防ぐにはどうしても柳沢峠越えにしなければならない点を説明した。そして、県庁に陳情して地域住民の熱意を示すこと、又、県令には区長が直接面談して実情を訴え柳沢峠越えを強く懇請した。もともと青梅街道については藤村県令の道路開発の方針にあり、関係村々を啓蒙説得し、代表者として協力している区長の意見を尊重せざるを得なかった。結局県令の鶴の一声にて柳沢峠越えと決定したのである。天狗沢橋の手前の高い石積みの上に旧道は一部を残しているが、ここの切り下げにも難渋したそうである。橋から上は大體旧道に沿って東上し、小松尾部落を経て番屋坂と称する急坂にさしかかる。坂の途中に萩原口番所が明治初年まであったので、ここの部落は番屋と称している。

*次ページに続く

神金の歴史

現在番所跡はないが、一昨年（昭和六三年）塩山市の史跡に指定され説明のための標識板が建てられた。関所の通行手形・絵図面・当時の関係書類は上小田原の矢崎敏代さん宅に多数所蔵されている。番所の左上の山手に、巨大な岩が真二つに割れているのが見える。これが通称「お割れ石」といわれ神様が祭られている。この岩が雲峰寺の山号の基である。大昔、この岩の割れた間に萩の老木があった。雲峰寺を創建したと伝えられる行基菩薩がこの萩の木を切り、雲峰寺の山門（黒門）の前の川を隔てた正面にある高さ十米余の白華巖という見上げるような巨岩の上で端座読経して三体の観世音菩薩像を刻まれた。その一体を雲峰寺に安置しこの一帯を上萩原と名づけた。次の一体を根子橋の観音堂に安置しこの一帯を中萩原と名づけた。残る一体を仁慶山長昌院に安置しこの一帯を下萩原と名づけたと伝えられている。根子橋の観世音堂は、明治四十年の水害で流失してしまい現在はない。

この岩は明治三十六年に、陸軍の工兵隊がドイツから輸入した鑿岩機の試験使用として穴をあけたり削り取ったりして尊巖を傷つけた。その後大正十四年頃石材業者が県に採石許可願いを出して許可された。そのことを知った雲峰寺の檀家をはじめ村を挙げて反対したが、元来県の所有なので遂に負けてしまった。先年亡くなった和尚さんが、草鞋を履いて村内の有力者の宅を頼み歩いていた姿を覚えている。暫くして歴史的文化遺産は消滅したのである。甲府駅から見える甲府城頭に立っている謝恩塔は白華巖の左上方にあった岩盤の一部である。



御割れ石



口留番所跡